

テーマ 泥と土、砂の違いを感じる

2024.8.22 (木) つばき組 11名 かえで組 13名 けやき組 11名
2024.9.12 (木) つばき組 13名 かえで組 14名 けやき組 13名

子どもたちにとって身近な存在である砂や土。水を加えると、その形状が変化していきます。全身で砂と土に触れることで、その変化を味わってみます。身近な自然物の変化に気づき、遊びの中でもあらためて魅力を感じることでできる経験を目指します。

活動のために準備した素材や道具

ラッシュガード、水着、タオル、ブルーシート、ガイロメ粘土、水をためておくタライ

活動の内容

9:30 園庭集合

陶芸用の粘土の説明を聞きます。園庭には粘土になる前のサラサラの砂の山。

「水を加えると、硬さの違う粘土になっていくよ」と説明を受け、自分たちで砂に水を加え、思い思いの硬さに変化させていきます。



「手が白くなった!」「おばけみたい」「おだんごができたよ」
サラサラの砂に少しだけお水をたらすと、お団子のように丸めることができるようになりました。水を加えて粉がとろとろの土になると、レジャーシートの上でツルツルと滑ることができます。

「坂にしたらウォータースライダーになりそうだね」「砂場の土とは少し違うね」身近にある土とは違う感覚を味わいます。ふわふわの砂に加える水の量を変えて少なめにすると、今度は硬い粘土が出来上がります。



「ここは硬いね」「お水が少ないから」「さっ
き上に乗って、ぎゅっぎゅってしたからじゃない?」気づいたことを友だち同士で伝え合います。粉状の粘土に少量の水を加えながら混ぜ合わせて少しずつ固めていく粘土のコーナーでは、お団子を作って上に乗せたり、足で踏みながら固めたり。

「まだサラサラだね。もうちょっと水を足そう」「あ、水を入れすぎてべちゃべちゃだ」と水の量で粘土の質感が変わっていくことに気づきます。

「もっと粘土が必要だ、持ってくるね」「じゃあ、混ぜているね」と友だち同士で役割を作る姿も。肌で質感を感じてどうしたら固まるのかを周りの友だちと一緒に考える時間も楽しいひとときのようなのでした。



保育者の気づき

混ぜる、こねる、踏みしめる、滑る。さまざまな感覚を粘土の土を通して感じる事ができました。形状が変わっていくたびに変化していく面白さ。ふわふわが好きでずっと触っている子、ツルツル滑ることを楽しんで友だちと大笑いする子、少し固めの粘土の塊の山に登ってみたり、粘土遊びをして形状を作っていく子、それぞれに、好きな感触や活動を選んで楽しむ様子がありました。粘土の土と水の組み合わせで感触が変わることも知ることができました。一つの素材に水が加わるだけで、感触がどんどん変わることを全身で感じます。友だちと感じたことを伝えあったり、素材の変化の面白さを一人でじっくり感じたりと、それぞれが土と向き合っている姿が印象的でした。終わってから粘土を砂場の土と並べて比べてみたり、形作って行ったりと、日常の中に新しい素材が馴染んでいる様子でした。

テーマ 陶芸

2024.10.30 (水) けやき組 28名 形づくり
2024.11.13 (水) けやき組 28名 釉薬で色付け

子どもたちにとって身近な存在である砂や土。水を加えると、その形状が変化していくことを夏の活動で知りました。今回はけやき組が陶芸活動を通じ、粘土で形を作り、焼くことでお皿や作品が出来上がる過程に触れていきます。

活動のために準備した素材や道具

陶芸用粘土 粘土板 新聞紙 竹串 模様をつけられる葉っぱなど
釉薬

活動の内容

アトリエにてけやき組集合

陶芸用の粘土の説明を聞きます。陶芸の講師から、形の作り方の説明を聞き、粘土に触っていきます。形作ったあとは乾燥させ、色をつけて焼き上げます。今回は子どもたちとも話をして、「ウインドウチャイム」を作ることにしました。



いつもとは少し違う土の感触に「わー柔らかい」「手が黒くなった」と友だちと伝えます。伸ばしたり、重ねていくことでさまざまな形になっていくことを知ると、「どんな形にしようかな」「模様つけてみようかな」と次々に思いが広がっていききました。

陶土が手に馴染んでくると、土台となる新聞紙にぎゅっと重ね合わせていききました。

「自分で形を変えられるようになってきた」

「カエルの顔にしたい」「しっぽつけてみようかな」イメージを形にしていけます。「どんな模様になるかな」と素材を手に取り押し当ててみる。「うずまきができた!」と新たな発見にも出会う。触れて、感じて、考えて。そうして自分だけの形が出来上がっていききました。



1ヶ月ほど時間をおいて、乾燥させます。久しぶりに触れた陶土。「色が変わってる!」「なんかちょっとだけ小さくなった?」少し変化した姿にじっとりと目を向けていました。

そして次は色付けへ。絵の具みたいだけど少し違う「釉薬」にも出会います。塗ったときと焼き上がった後でまた色が変わってくるという性質を知ると、「これが赤色になるんだ!」「早く焼いて見てみたいな」と新たな思いが生まれます。様々な工程を重ねていく度に変化していく姿、子どもたちの思い。最後に焼き上がるまでわからない「音」にも思いを馳せる時間になりました。

保育者の気づき

普段触れている「泥」「土」とは少し違う「陶土」。子どもたちは触ったときに「冷たい」と感じていたようです。まずはよく触って、その感触をじっくりと味わい、講師の方のお話をよく聞きながら、形を作っていました。ベースの形は同じですが、飾りは一人ひとり様々です。付け加えたり、模様をつけたりと個性あふれる作品が出来上がりました。釉薬を塗る際には細かいところまで丁寧に。作品を大切にしていることが伝わってきました。土、釉薬といった素材との出会いの中で、普段知っているものとの違いに気づき、伝え合っていくことができました。乾燥させたり、焼き上げることで素材そのものに変化が生まれていくことにも興味津々の様子でした。